



▲ 世界的な観光資源阿蘇中岳火口

「」の花を添えることにしていますが、今後の定着化を期待します。

☆観光連盟組織強化事業……………千五百万円  
観光関係団体である観光連盟は五十三年度において、組織の改革を行い、行政民間サイドによる観光振興を進めていますが、今後、ますます組織強化と相まち観光を推進してまいります。

☆熊本国際フェア……………二千五百万円  
本年は、県民多年の念願である熊本空港の国際化が具体化の段階を迎えつゝある年でもあるので、これを記念して、海外の催し物や物産展示即売を行う国際フェアを観光くまもとフェスティバルと同時にまいります。

☆ふるさと顕彰……………三百一十万円  
ともすれば埋れがちな郷土の伝統的工芸や民族芸能の維持に努めている方々や団体を顕彰します。今年には特に五周年を記念してこれまで受彰された民族芸能の一部が「ふるさと祭り」に出演します。

し日本脳炎の流行状況を的確につかみ、流行防止策を研究します。  
(医療体制の整備充実)  
☆総合保健センター建設調査……………百五十八万円  
県民健康づくりを総合的に推進するための中枢的機能を有する総合保健センターの設置を促進するため、調査検討を行います。

☆救急医療情報システムの整備……………一億五千三百五十四万円  
救急患者の医療の確保を図るため、救急医療施設等からの確に情報を収集し、搬送機関等へ必要な情報の提供を行う企業を対象とした情報ネットワークの整備を行います。

☆第三次救急医療体制の整備……………二億八千五百四十二万円  
初期救急医療施設及び第二次救急医療施設の後方病院いわゆる救命救急センターとして、重篤救急患者を受け入れるために必要な施設・設備の整備費及び運営費の助成を行います。

☆新生児未熟児搬送車整備補助……………千万円  
小児医療部門の設備を充実して発足した熊本市民病院に、新生児未熟児搬送車購入費を助成します。

快適で充実した生活を送るためには何よりもまず健康であることが基本であり、健康は県民福祉の基盤であります。近年、県民生活の変はうは著しく、健康に影響を及ぼす諸要因もますます複雑多様化しており、また一方県民全般の意識の中に健康に関する価値観が高まっております。

衛生行政においては、このような現状にかんがみ従来の施策の強化は勿論のこと新たな施策を強力に推進します。  
(県民健康意識の高揚)  
☆健康くまもと推進員の養成……………千二十八万円  
疾病及び保健衛生全般に亘る知識を日常生活に生かし普及啓蒙するための地域リーダー養成講座を開設し、終了者を健康くまもと推進員として広く県民に対する知識の普及浸透を図ります。

☆健康づくり推進対策……………二千八百四十三万円  
県民各人の健康に関する自覚と認識を高め、健康づくりを積極的に推進するための事業を実施します。  
一、熊本県健康づくり推進協議会の設置  
二、健康増進月間の設定  
三、健康づくりに係るシンボルマーク・標語・ポスター・体験作文等の募集  
四、健康づくり県民大会の開催  
五、婦人健康教室の開催  
六、成人健康教室の開催

七、婦人の健康づくり推進事業助成 (八市町村)  
☆薬物乱用防止対策……………四百二十二万円  
年々増加の傾向にある青少年のシンナー、接着剤等の乱用を防止するため、啓発活動を強化し販売、保管の適正化を図ります。

☆酒害防止対策……………二百六十六万円  
健康づくりの一環として、飲酒に関する知識の啓蒙普及活動を通じアルコール中毒者や酒害に悩む家族等の相談に応じ酒害防止を図ります。  
(検診の充実強化)  
☆市町村母子保健事業助成……………四千五百七十万円  
母子保健施策を推進するためには、地域住民の生活に密着した市町村レベルでの事業を強化することがより効果的です。このため、市町村において実施される各種母子保健事業を助成し、積極的に母子保健の向上をはかります。

☆妊産婦保健対策……………八千九百八十九万円  
妊産婦の健康管理を徹底し、乳児、新生児の死亡率を低下させるために、医療機関に委託し実施する妊婦健康診査を拡大強化します。また、保健所においても妊産婦の健康診査や保健指導を促進しま

す。  
☆0才児医療費助成……………二億三千四百六十一万円  
☆先天性代謝異常検査……………千五百万円  
☆筋拘縮症対策……………七百三十万円  
専門委員会を設置して筋拘縮症の発生前防、治療、事後指導等について協議検討を行う一方、筋拘縮症検診等の強化徹底を図ります。なお、筋拘縮症児童については、公費負担により育成医療を給付します。

☆脳性マヒ児検診事業……………百万円  
脳性マヒ児の医療対策を効果的に推進するため、治療効果のある乳児期を対象に調査を行い、超早期治療該児をは握し、適切な医療が受けられるよう指導します。  
☆肺がん検診事業……………六百七十九万円  
最近肺がんによる死亡者が急増しているため、本年からパイロット事業としてレントゲン車による肺がん検診を実施し、検診方式の確立と早期発見、早期治療の徹底を図ります。

☆小児慢性特定疾患治療研究……………九千六百六十一万円  
☆日本脳炎研究調査……………百二万円  
日本脳炎予防対策の一環として、本年からコガタアカイエカの発生消長を調査

からコガタアカイエカの発生消長を調査

からコガタアカイエカの発生消長を調査